

**みやぎ
心のケアセンター
概 要**

みやぎ心のケアセンターの概要

運営法人の概要

名 称	公益社団法人 宮城県精神保健福祉協会	会 長	高階 憲之 (医療法人松涛会 南浜中央病院 理事長)
設立趣旨	精神保健福祉事業を推進し、もって県民の精神保健福祉の向上を図る	所 在 地	宮城県大崎市
法人設立	昭和46年（昭和34年開設）		

みやぎ心のケアセンターの設置経過

被災者の震災による心的外傷後ストレス障害（PTSD）、うつ病、アルコール関連問題、自死などの心の問題に長期的に対応するとともに、被災精神障害者の医療と地域生活を支援するため、拠点となる心のケアセンターの設置が必要となりました。宮城県からセンターの運営について打診があり、協会としても積極的に取り組むこととして、心のケアセンターの設置運営を行うこととしました。

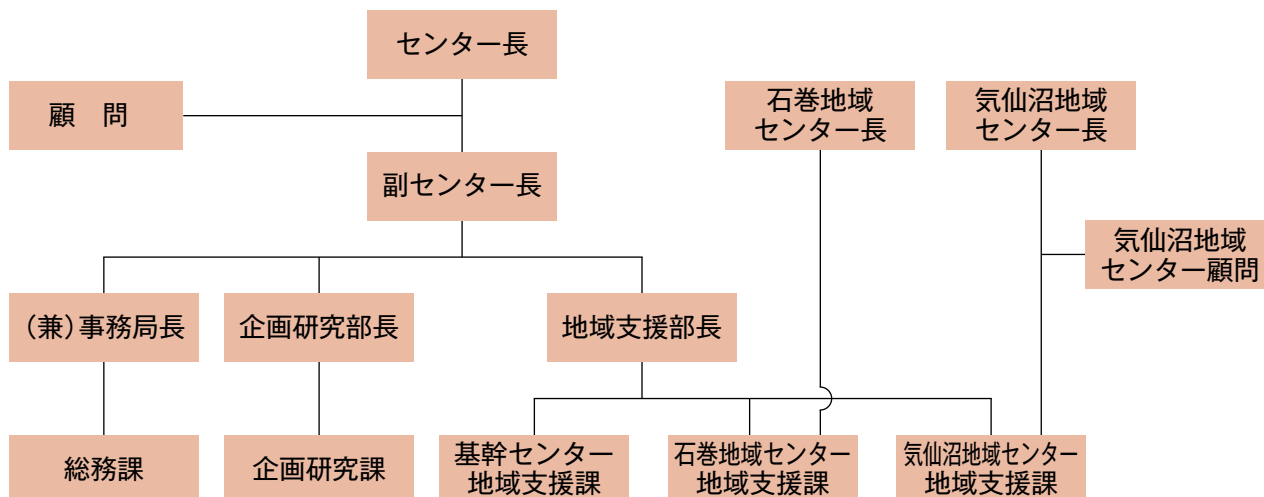
- ・2011（平成23）年11月 協会内に準備室の設置
- ・2011（平成23）年12月 心のケアセンター（基幹センター）を設置
- ・2012（平成24）年4月 石巻地域センター・気仙沼地域センターを設置

みやぎ心のケアセンターの体制

職 員 数	55名（常勤43名、非常勤12名）2021年3月31日現在
職 種	精神科医、精神保健福祉士、心理職、保健師、看護師など
所 在 地 (活動地域)	<ul style="list-style-type: none"> ●基幹センター [仙台市青葉区] <ul style="list-style-type: none"> ○活動地域（塩釜地区、岩沼地区および内陸部） ●石巻地域センター [石巻市] <ul style="list-style-type: none"> ○活動地域（石巻地区） ●気仙沼地域センター [気仙沼市] <ul style="list-style-type: none"> ○活動地域（気仙沼地区および避難先の一関地区）



みやぎ心のケアセンター 組織図



基本理念

被災地における地域精神保健福祉の向上

活動の基本方針

- (1) 市町と協働しアウトリーチを中心とした地域住民支援の活動
- (2) コンサルテーションやメンタルヘルスなどの多角的な支援者支援
- (3) 「子どもから大人まで切れ目のない支援」の実施
- (4) 被災市町の状況に応じた地域精神保健の支援活動
- (5) 今後の大規模自然災害の対策に資する活動などのとりまとめ

主な活動内容

東日本大震災により、心理的影響を受けた宮城県内在住者の全てを心のケアの対象者としてとらえ、県民の方々がコミュニティの中で、一日も早く安心して生活できるよう、地域の実情に合わせた支援事業を行っています。



■取り組みの特徴

- ・自治体の保健福祉部門や被災者支援担当者を窓口とした支援を中心に、地域のニーズに応じた活動を行っています。
- ・複数の専門職が職域を超え、チームで対応しています。

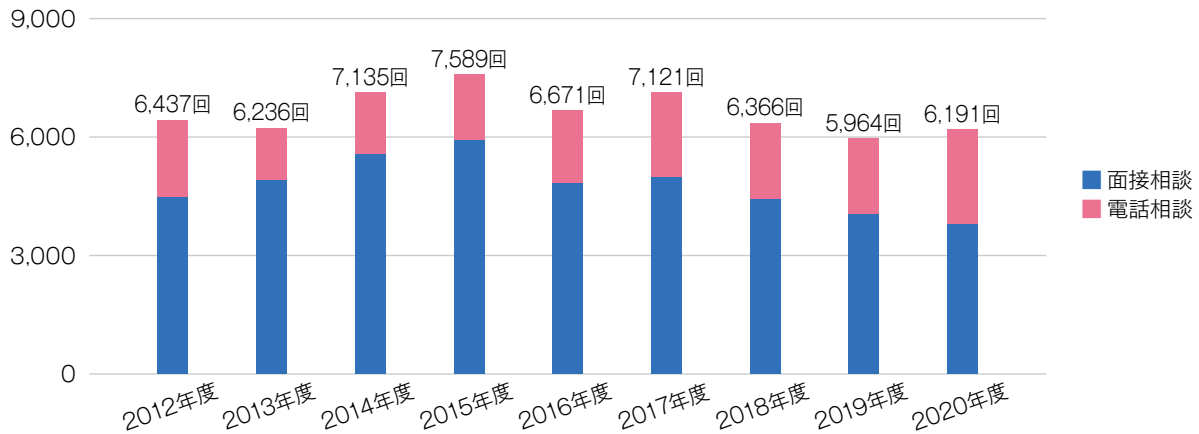
活動実績

宮城県で実施した応急（プレハブ）仮設・民間賃貸借上住宅および災害公営住宅入居者健康調査や、市町で実施した各種健康調査の結果に基づく要フォロー者への支援のほか、対応困難な住民への支援に関する専門的助言、疲弊した行政職員や仮設支援員など支援者へのメンタルヘルス支援、市町の専門的な人材不足を補完するための支援など、地域のニーズに対応しました。

※応急（プレハブ）仮設住宅は以下、「応急」、民間賃貸借上住宅は以下、「民賃」と表記します。

※独自の業務統計システムを用いて集計作業を行っており、複数の職員で対応した場合も同一の活動は1件として集積しています。

【地域住民支援】

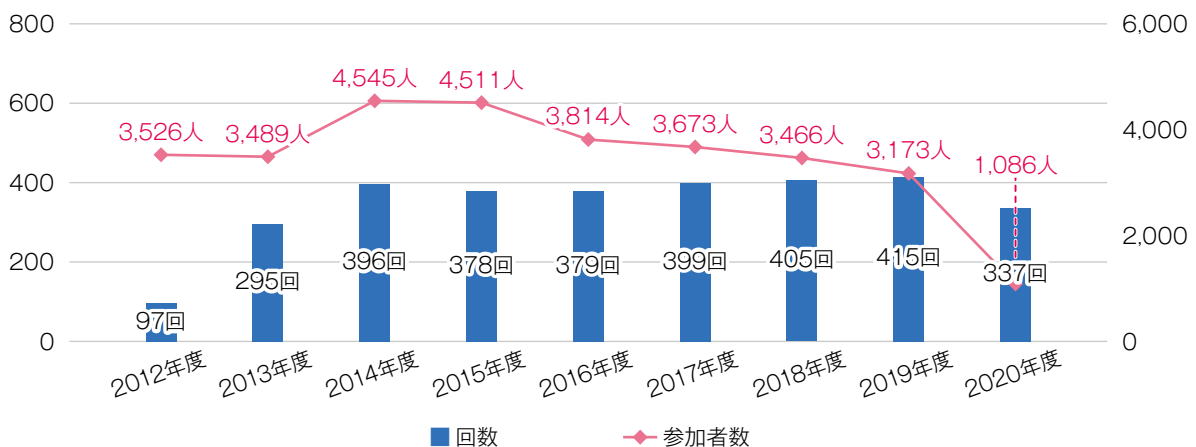


地域住民支援（延べ件数）

年 度	2012 (H24)	2013 (H25)	2014 (H26)	2015 (H27)	2016 (H28)	2017 (H29)	2018 (H30)	2019 (R1)	2020 (R2)
面接相談(回)	4,492	4,926	5,569	5,921	4,828	4,990	4,419	4,047	3,793
電話相談(回)	1,945	1,310	1,566	1,668	1,843	2,131	1,947	1,917	2,398

宮城県で実施している応急・民賃および災害公営住宅入居者健康調査、市町で実施している各種健康調査の結果に基づく要フォロー者への支援など

【普及啓発】



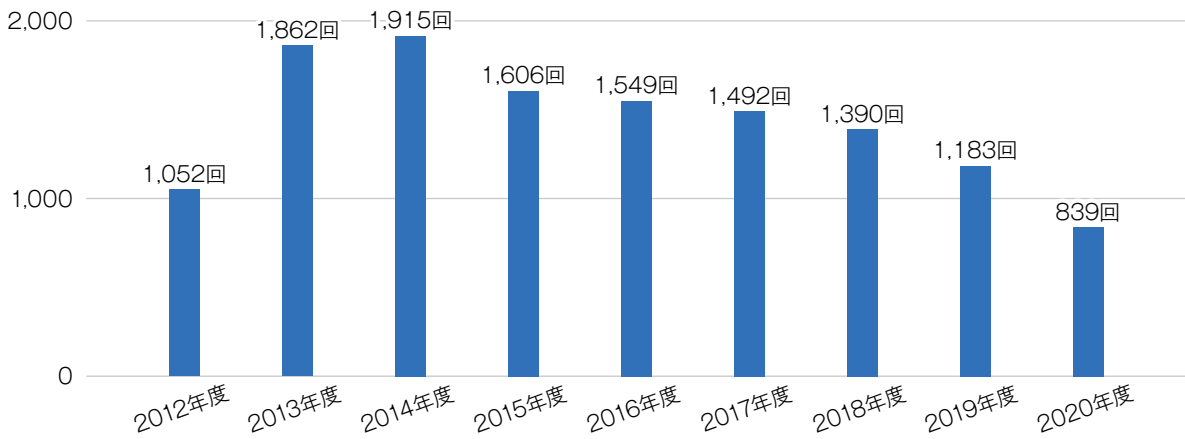
普及啓発

年 度	2012 (H24)	2013 (H25)	2014 (H26)	2015 (H27)	2016 (H28)	2017 (H29)	2018 (H30)	2019 (R1)	2020 (R2)
回 数(回)	97	295	396	378	379	399	405	415	337
参加者数(人)	3,526	3,489	4,545	4,511	3,814	3,673	3,466	3,173	1,086

メンタルヘルスに関する情報発信および啓発

◇サロン活動、普及啓発研修、心の相談窓口など

【支援者支援】

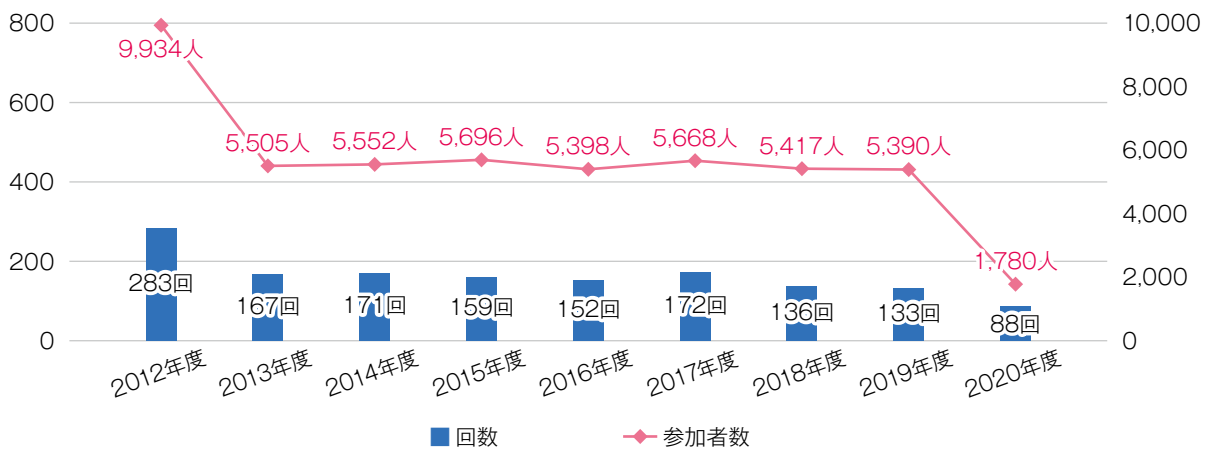


支援者支援

年 度	2012(H24)	2013(H25)	2014(H26)	2015(H27)	2016(H28)	2017(H29)	2018(H30)	2019(R1)	2020(R2)
回 数(回)	1,052	1,862	1,915	1,606	1,549	1,492	1,390	1,183	839

市町職員や仮設支援員などの支援者を対象とした精神保健活動および心身の健康の維持を目的とした支援

【人材育成】



人材育成

年 度	2012(H24)	2013(H25)	2014(H26)	2015(H27)	2016(H28)	2017(H29)	2018(H30)	2019(R1)	2020(R2)
回 数(回)	283	167	171	159	152	172	136	133	88
参加者数(人)	9,934	5,505	5,552	5,696	5,398	5,668	5,417	5,390	1,780

メンタルヘルスに関わる専門職や支援者を対象とした知識の普及および研修

◇行政関係者、仮設支援員、教育関係者などを対象とした支援スキル研修、アディクション関連問題研修など

各センターの特徴

基幹センター

塩釜保健所および岩沼支所圏域の市町を担当しており、それぞれの復興状況やニーズに沿って、市町担当者・保健所と共に課題を共有しながら対応しています。

- メンタル面での問題を抱えた母親への対応依頼が増えてきており市町担当者との同行訪問や同席面接を行っている。
- 市町で抱えている困難ケースへの助言のニーズがあり、事例検討会・支援会議への参加が求められている。

石巻地域センター

圏域全体が被災している地域です。災害公営住宅への転居などの変化に伴い、直接住民に対して支援する体制、支援者同士のより強い連携による支援体制の構築が喫緊の課題になっています。

- 保健所と市町とどのように協働していくのかを計画としてまとめ、住民への直接支援のほか、保健所が軸になって支援者をサポートする体制の構築に向けて実践していくこととなった。
- 保健所と市町とともに協働しての研修会の開催など、実践を通じて圏域の意思疎通を深めていく。

気仙沼地域センター

圏域全体が被災している地域です。震災発生前から心のケアに関わる専門職が不足しており、震災後は一層深刻な状況です。当センターは住民の個別相談に対応できる機関として認知され、相談件数は高止まりの状態が続いています。

- 個別相談は子どもの相談と20代～40代の働き盛り世代からの相談が増えている。
- 相談の内容は多要因で複雑なケースが多く、継続的な支援が求められている。



子どもの心のケア地域拠点事業 2016 (H28) 年度～2020 (R2) 年度まで

(件)

	年度	2016	2017	2018	2019	2020	
①相談事業	相談	230	281	330	373	431	子どもや家族、支援者を対象者に訪問、来所、電話相談
②専門職派遣	回数	234	266	309	229	262	児童精神科医や臨床心理士などを市町や学校、幼稚園などに派遣
③研修事業	回数	43	51	40	47	31	研修会の開催、市町村・保育所などが行う研修への講師派遣
④普及・啓発事業	回数	4	2	3	20	4	子どものメンタルヘルスに関するパンフレットや広報誌などでの情報発信やサロンなどへの協力
⑤調査研究事業	研究	2	2	11	9	4	子どもコホート調査